



子曰く…

梅雨が明けました。暑いです。熱中症にはくれぐれもご注意ください。

さて、私が最初に論語に触れたのは中学？ それとも高校？

中高生の時は、試験のために勉強しましたが、面白さを感じることはなかったかもしれません。そんな生徒だったのに、大学に入ると漢文を読むことに憧れ（なんとなくカッコいい？）がでてきて、書籍になっている論語を購入。

だけど、途中で挫折。就職後も購入したけど、また挫折。最後まで読んだ記憶はありません。とにかく、私にとって論語は難しいものでした。

ところが、昨年、論語全集という書籍と出会い、性懲りもなく電子版を再び購入。

今度こそ挫折しないぞ！ と、心に決め、少しずつ読むことに。

すると、これがなかなか面白い。

M崎先生にも伝えたのですが、孔子と弟子との人間臭いやり取りが書かれてあり、小説のように楽しく読めるのです。

子路という少しやんちゃな弟子が改心していく姿は、共感できる場所が多くあります。

私のような論語挫折経験者でも最後までほぼ読む（目を通す？）ことができました。

高校の時の国語の先生も「やんちゃな子路が、孔子先生にくっついてかかってどうのこうの…」

といったエピソードを交えて教えてくれたら、私の国語の成績はもう少しよかったかも？

昨日の壮行会でも引用しましたが、3年生の国語の教科書には次の言葉もあります。

子曰く、学んで思わざれば則ち罔（くら）し、思うて学ばざれば則ち殆（あやう）し
先人の知識を学んでも、ただ詰め込むばかりで自分の頭で考えないなら、何も見えてはこない。
逆に自分勝手に考えるばかりで先人の知識を学ぶことをしないと、独断に陥って危険だ。

中高生の時は知識を詰め込もうとしていたから、何も見えてこなかったのかもしれませんが。

この歳になって、ようやく先人の知識を学び、少しずつ自分で考えだしたから、論語を読むことができるようになったのかもしれませんが。

子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず
あることを理解している人は知識があるけれど、そのことを好きな人にはかなわない。
あることを好きな人は、それを楽しんでいる人に及ばないものである。

今から約2,500年前の言葉ですが、学ぶことは多くあります。

いつの時代になっても大切なこと、本質というものは変わらないことを教えてください。

先人から学び、自分で考え、学ぶことを楽しむ、そういう学びを積み重ねたいものです。